

◆2015年に日本を訪れた外国人の延べ宿泊者数を国・地域別にみると中国が最も多く、台湾、韓国、香港、米国が続いた。欧州では英国が9位、フランスが11位だ。ところが四国ではフランスが6位に食い込んでいる。なぜか。理由の一端は恐らく香川県丸亀市に住む女性の存在にある。

◆NPO「四国夢中人」代表の尾崎美恵さんは62歳。団体を名乗るが、08年からほぼ独力でフランスと四国

## 時流 地流

との文化交流に奔走してきた。1人インバウンド(訪日外国人)誘致ともいえる奮戦ぶりは9月に出版された著書「すいお母さん、EUの大統領に会う」(文芸春秋)に詳しい。

◆尾崎さんは丸亀市で専業主婦として3人の子育てに追われながらフランス語を学んだ。43歳で一念発起し、岡山大学大学院の仏文研究科に入学。修了後の01年から短大などでフランス語を教え始めた。07年に研修で訪れたパリでうどん店がに

# フランス人が慕う四国の母

ぎわっているのを見て、「本場の讃岐うどんのおいしさを伝えたい」という使命感にかられた。

◆事業経験や資金、組織もない中、行政機関や経済団体などを口説いて支援を取り付け、パリで開かれる日本文化の見本市「ジャパン・エキスポ」に08年から4年続けて出展。讃岐うどんだけでなく四国の魅力を売り込んだ。プロガール発信力のあるフランス人を四国に招くツアーもたびたび実施し、14年には俳句ツアーに興味を持った欧州連合のファンロンパイ大統領(当時)が面会に応じた。

◆培った人脈を生かし、今年9、10月にもベルギーのブリュッセルとパリで四国遍路に関する講演会を開いたばかり。「妄想が膨らみ出すと止まらない」という尾崎さんは、かつて海運で栄えた丸亀市沖の塩飽諸島の歴史や文化を海外に発信し、島々の活性化につなげる新たな企画も練る。

◆「何も無い私でもここまでできた」という尾崎さんの挑戦は自治体や観光団体などに奮起を促す一方で、観光のみならず地域のために何かしたいと志す人々に大きな励みとヒントを与えてくれる。(真鍋正巳)